

授業改善へむけての7つの視点

「当たり前なこと」を再確認することから

平成25年10月
寒川町教育委員会

① 授業のポイントの明確化・顕在化をはかる

- ・ 本時の目標の顕在化…単元名や内容項目だけではなく子どもの学びを明確にする
- ・ 子どもの活動と指導の流れの確認…何となく進めるのではなく、授業の流れを事前にイメージする
- ・ ふりかえりと評価のある授業…やりっぱなしにせず、要所で児童生徒も教師も授業をふりかえる

② 板書の充実をはかる

- ・ 黒板の不要掲示物を整理してから授業を始める
- ・ 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい・課題・問題）の提示をする
- ・ やり方の提示だけでなく、子どもの発言、意見や考えを書く
- ・ 授業のおわりに、結果や考察やまとめの提示をする

③ 言語活動の基礎となる場面を取り入れる

- ・ 「自分の考え」をもたせるためのステップがある
- ・ グループや全体で考えを言う場がある
- ・ 決定したり判断したり、自分の考えを再考する場がある

④ 言語環境の整備をおこなう

- ・ 教師の話し方・聞き方の点検（言葉遣い・表情・抑揚・間の取り方など）をおこなう
- ・ 児童生徒の話し方・聞き方の指導をおこなう
- ・ 音読のしかたの指導をおこなう
- ・ ノートやメモの取り方、自分の意見の書き方、資料の読み取り方などの指導をおこなう
- ・ 理由や根拠をあげながら説明する機会を積極的に取り入れる

⑤ 多様な学習形態から必要なものを選択する

- ・ 机間指導と個別指導をする
- ・ 必要に応じて、特別教室等の選択、机の配置や向き等を変える
- ・ ペアや3～4人程度のグループでの活動を取り入れる

⑥ 教材教具やワークシートを工夫する

- ・ 学びを支援するために、様々なアイテムを検討し、効果的に使う
- ・ ICT機器（学習用パソコン・実物投影機など）を積極的に活用する
- ・ 一人ひとりの教師が使用・作成したものをデータベース化し共有化をはかる

⑦ 授業前後や日常生活における学習への支援をおこなう

- ・ 授業の目標に到達していない児童生徒への対応の早期実行
- ・ 漢字や計算等、意欲的に反復練習することができる工夫と取り組み
- ・ 家庭学習（予習・復習）への支援、宿題の習慣化
（教師単独で取り組むだけではなく、教科・学年・学校での取り組みとして）